校訓：高く　明るく　たくましく　　Ｖｏｌ．９

学校だより

平成 30 年１２月３日
狭山市立入間野中学校
学校教育目標：志高く　心豊かに　自らを鍛える生徒　校長　　尾澤　栄一

感謝の気持ちを通じて、人に優しく、人を大切にする心を育てる。

師走の慌ただしい時期となりました。お陰様で2学期も保護者、地域の方々にお世話になり、時には助けられたり励まされたり、心温まるお声をかけて頂いたりと、人は人とのつながりで成長していくことと、学校の歴史も人の上に成り立っていることを実感する毎日です。先日、実施した職場体験では、2学年の生徒が、仕事を通じて、働くことの意義や社会での厳しさ等を体験しました。ご多用の中を地域の各事業所には、大変世話になりありがとうございました。

さて、11月は、生徒会主催の感謝の集いが行われました。日頃生徒たちがお世話になっている校務員、給食配膳員、図書ボランティア、おやじの会等、生徒たちはそれぞれの感謝の想いを工夫して表し、感謝する側とされる側とが共に豊かな心と清々しい気持ちとなった集いでした。事後指導のアンケートでは、99.6％の生徒が感謝の気持ちを持つことができたと答え、次年度も継続して行いたいと、入間野中の歴史に新たなページを飾ることとなりました。最後に生徒会長宮本君の指揮での校歌合唱は、生徒全員の気持ちが一つになり素晴らしい歌声でした。その折に、本校校歌作詩者の吉野弘さんのエッセイを思い出したので引用して紹介します。『信号機のない横断歩道の片側で、歩行者が車の切れ目を待っている。地響きが立てて走ってきた大きなトラックがその横断歩道の手前で「どうぞ」というようにスッと止まる。歩行者が驚いたように、トラックの高い運転席を見上げ、軽く会釈して道を横切る。運転手がなんとなく会釈を返す。トラックはすごい唸りをあげて走り去る。私は、そんな情景を見るのが好きだ。歩行者の感謝の気持ちが間違いなしにトラックの運ちゃんに届いたと感じられるからだ。**人間は、他人から感謝の気持ちを示されると、なぜか、やさしい気分になるものだ。**それを見届けるのが好きなのである。』(「くらしとことば」より)

感謝の集い

とかく人間関係が希薄になりつつある世の中だからこそ、人が人を大切にし、互いを尊重し合い敬意を表すことが、明るい未来を創造していくことなのだと思います。今学期も、様々な体験活動や行事によって、生徒たちの自尊感情が高まり、目指す学校像にまた一歩近づいてきた感を抱いています。

11月27日.28日は、2学年において、JOCオリンピック教室が行われました。これは、JOCオリンピック委員会が主催し、オリンピアン（オリンピック出場のアスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」「オリンピックの価値」等を伝え、その精神を共有して日常生活にも活かせる体験をするものです。この行事から、生徒たちはオリンピックの価値及びオリンピック精神の教育的な価値等を学び「努力から得られる喜び」「他者への敬意」等を考えることで自尊感情が高める体験をしました。世界共通の人類の文化であるスポーツを通して他者を尊重しこれと協同する精神や公正さを学ぶこともオリンピックの意義です。生徒たちはまたひとつ、心に残る体験をしました。

ＪＯＣオリンピック教室